

私がクマにキレた理由(わけ)

2008(平成20)年8月5日鑑賞<試写会・リサイタルホール>

★★★



監督・脚本＝シャリ・スプリングー・バーマン、ロバート・ブルチーニ／原作＝エマ・マクローリン、ニコラ・クラウド『ティファニーで子育てを』(文春文庫刊)／出演＝スカーレット・ヨハンソン／ローラ・リニー／アリシア・キーズ／クリス・エヴァンス／ポール・ジアマッティ／ニコラス・リース・アート／ドナ・マーフィ(ショウゲート配給／2007年アメリカ映画／106分)

……奇妙な邦題にまず注目！ 次に、①「NANNY」ってナニ？ ②なぜ、アニーがナニーに？ という2つの疑問を持つことが大切。日本ではなぜか今『蟹工船』がブームだが、『蟹工船』はマンハッタンの超高級アパートにも……？ テーマはあくまで自分探し。さて、大学卒業後ナニーとしてのひと夏を経験したスカーレット・ヨハンソン演ずるヒロイン、アニーは、いかなる自分を発見……？



「NANNY」ってナニ？

この映画の邦題『私がクマにキレた理由』の意味は、映画を観るまで絶対わからないはず。なぜならこれは、配給会社や宣伝会社が工夫してヒネり出した邦題だから。それに対して、この映画の原題は『THE NANNY DIARIES』、つまり「ナニーの日記」だから単純なもの。ところが、ここで普通の日本人が持つ疑問は「NANNY」ってナニ？ ということ。

そこで辞書を調べてみると、「NANNY」とはプロのベビーシッターのこと。つまり、「ナニー」とは、育児や教育の知識を持ったプロのベビーシッターで、イギリスの国家資格の1つらしい。またプレスシートには「ナニー」について「幼児保育のプロフェッショナルをナニーといい、欧米では普及している職種である。在宅もしくは訪問で保護者に代わって幼児を預かり、育児を助ける仕事。ただ預かるだけでなく情操教育やしつけを行う点が保護者の注目を集めている。子供の成長を先々まで見据えて子供の能力を引き出し、子育てに関する親の悩みに対して客観的なアドバイスをす

る。仕事を続ける母親が増えるなか、保育所の不足が問題になっており日本でもニーズは拡大が続けている。」と詳しく解説されている。

これを読めば一応「なるほど」と納得できるが、この映画にみるミスター X、ミセス X 家における 5 歳の息子グレイヤー（ニコラス・リース・アート）のナニーは、多くの日本人の想像を絶する過酷な仕事。前述のようにプレスシートでは、ナニーは「日本でもニーズは拡大が続けている」と書かれているが、少なくともミスター X 家にみるようなナニーは日本ではありえないのでは……？

あの人種、この人種の生態に興味あり！

日本では「格差、格差」と騒いでいるが、これは格差は悪いことだという前提に立った一部の人だけの主張。それに対して、「自由」に最大の価値を置くアメリカでは、格差があるのは当たり前、競争に勝ち抜いてリッチになることが人生の目的と考えている人たちが多いはずだ。この映画のヒロインであるアニー・ブラドック（スカーレット・ヨハンソン）も、少なくとも大学卒業時の価値観はそうだったはずだ。

他方、何を血迷ったか、アニーがナニーとして働くことになったグレイヤーの父親ミスター X（ポール・ジアマッティ）は、ニューヨークのマンハッタンに住む、アメリカ的成功者の典型。日本では堀江貴文こと堀江貴文や村上ファンドの村上世彰が一時的な偶像に終わってしまったが、アメリカでは金融界を中心にそんな「成功者」がゴロゴロ。この映画の原作となった全米ベストセラー小説『ティファニーで子育てを』は、エマ・マクローリンとニコラ・クラウスがマンハッタンの30以上の家庭でナニーとして働いた経験を基に書かれているらしい。そんな小説が『ブリジット・ジョーンズの日記』や『プラダを着た悪魔』と同様にアメリカ女性の圧倒的サポートを受けたのは、アッパーイーストで暮らすマネーエリート族のリアルな描写とともに、ヒロインのアニーがナニーとして悪戦苦闘しながら自分の人生を見つけていくという等身大の姿に親近感を覚えたため。

そう考えると、私にとって、ミスター X 夫婦の生きざまもアニーの生きざまも直接関係はないが、マネーエリート族なる人種の生態やそこでこき使われているいわば「マンハッタン的蟹工船」ともいべきナニーなる人種の生態に興味あり！ さて、マネーエリート族の生態とは？ そしてまた、ナニーの生態とは？

あの「傘」とあの長い「単語」を知ってる？

ジュリー・アンドリュース主演の『メリー・ポピンズ』（64年）は、『サウンド・オブ・ミュージック』（64年）を観たことによってジュリー・アンドリュースの大ファンとなった私が興味深く観た映画。作品としては断然、『サウンド・オブ・ミュージック』の方が上だったが、お子様向けの童話としては良くできたもので、メリー・ポピンズが傘をもって空を飛んでいくシーンは有名。また「世界一長い言葉」である Supercalifragilisticexpialidocious は、『サウンド・オブ・ミュージック』のサントラ盤に次いで購入した『メリー・ポピンズ』のLPレコードを何回も聴いて覚えた英単語。

スカーレット・ヨハンソン主演のこんな現代的なテーマの『私がクマに切れた理由』に、なぜ『メリー・ポピンズ』へのオマージュが盛り込まれているのかよくわからないが、これはきっと1964年生まれのシャリ・スプリングー・バーマンとロバート・ブルチャーニコンビの趣味。しかし、今時の若い人たちは、ジュリー・アンドリュースの『メリー・ポピンズ』を知っているの……？ もし『メリー・ポピンズ』を知らなかったら、あの傘のシーンや、あの長い単語のシーンも何のことかわからないのでは……？

主役の他、あの名優、この名優が

アニーを演ずるスカーレット・ヨハンソンは今やハリウッドで若手ナンバーワンを争う女優だが、この映画ではその他にも、あの名優この名優がずらり。まず、一見やさしそうだが、高慢ちきで計算高く、そのくせ夫の愛に飢えている女ミセスXを演じるのは、『ミスティック・リバー』（03年）、『愛についてのキンゼイ・リポート』（04年）、『ライフ・オブ・デビッド・ゲイル』（03年）、『エミリー・ローズ』（05年）、『痛いほどにきみが好きなのに』（06年）等に出演している、私にもお馴染みのベテラン女優ローラ・リニー。

また「TIME IS MONEY」を実践し、合併話のために世界中を飛び回っているマネーエリート族のミスターXを演じるのは、『サイドウェイ』（04年）、『シンデレラマン』（05年）、『コンフィデンス』（03年）、『幻影師アイゼンハイム』などでお馴染みの個性派（腹が出た、ちんちくりんの、ハゲ男？）のポール・ジアマッティ。また出番は少ないが「楽に見える道こそ地雷だらけ」と適切なアドバイスをしてくれるアニ

ーの親友リネットを演じるのは、『スモーキン・エース／暗殺者がいっぱい』（06年）のアリシア・キーズ。同じく出番は少ないが、ひよっ子のようなアニーを温かくかつ厳しく見守ってくれる母親ジュディを演じるのがドナ・マーフィ。私はこのドナ・マーフィを『スパイダーマン2』（04年）、『ファウンテン 永遠につづく愛』（06年）、『ワールド・トレード・センター』（06年）で観ているが、あまり印象になかった女優。しかし、彼女は1959年生まれのプロードウェイで最も有名なミュージカル女優の1人らしい。

こんな風に、あの名優、この名優が監督・脚本のシャリ・スプリンガー・バーマンとロバート・プルチーニ夫妻による『アメリカンスプレnder』のスタッフたちと共に結集したのは2回目のことだが、やはり名優が揃うと映画は引き締まるものだ。ちなみにアニーの生き方に大きな影響を与える、同じアパートの上階に住む男性ハーヴァードを演じるのは『ファンタスティック・フォー 超能力ユニット』（05年）のクリス・エヴァンスだが、これがハンサムなだけではなく実にいい男。しかしこの映画はアニーの恋愛に重点をおいてはダメ。アニーとハーヴァードとの恋模様はあくまでサブストーリーとし、メインテーマはアニーのナニーとしての奮闘ぶりにおかなければ……。

テーマは、「私ってナニ？」

日本の若者たちの間では今「自分探し」が大はやりだが、言ってみればこの映画もアニーの「自分探し」。そんなテーマを、大学を卒業したばかりのアニーが気取らず、背伸びせず、自然体で表現したところがこの映画のポイント。そこで当然出てくる質問が、「私ってナニ？」だが、この質問は頭がよくて美人のアニーがママの期待どおりに金融界でエリートコースを歩むべく受けた投資銀行大手のゴールドマン・サックスの面接で出題されたもの。

母親のジュディ・ブラドックからプレゼントされたブルーのビジネススーツに身を包んだアニーが、面接官から受けた質問は「アニー・ブラドックとはどういう人間か？」というシンプルなものだったが、なぜかアニーはこれに答えることができず、頭の中が真っ白に……。意気消沈したそんなアニーがナニーになったのは、結局「私って ナニ？」の質問に答えるための自分探し……？



© 2007 The Weinstein Company, LLC. All rights reserved.

この映画も勘違いから……

サタケミキオ監督脚本の『同窓会』（08年）は、『キサラギ』（08年）、『アフタースクール』（08年）の系譜を継ぐメチャ面白い映画だったが、そのテーマは「勘違い」。しかして、『私がクマにキレた理由（わけ）』もアニーをナニーと聞きまちがえるという「勘違い」から物語がスタートする。

きっかけは面接で大失敗した自分に苛立ちながらセントラルパークのベンチに座っていたアニーが、危うく事故に遭いそうになった少年グレイヤーを助けたこと。そこに現れた母親のミセスXがアニーをナニーと聞きまちがえたため、アニーは一流企業への就職からナニーに方向転換をすることに。「ひと夏だけの体験」「アッパーイーストの最高級アパートに住み込んで子供の世話をすればいいだけだから、ラッキー」とアニーは考えたようだが、さて現実とは？

親元から独立できる喜びでいっぱいのアニーだが、乗り込んで行った先は明らかに

蟹工船……？

なぜ、さっさと辞めないの？

働くことになった職場の現実が、予想していたものと大きく異なることはよくある話。自分がいかに甘かったかとアニーが思い知らされたのは、次の2点。第1点は、ミスターX家におけるナニーは、ミセスXがショッピングにセミナーにと毎日外を出歩いているため、基本的に24時間労働だったこと。第2点は、事故に遭いそうなグレイヤーを助けてやった時はグレイヤーと仲良くなれそうだったのに、一緒に生活してみるとグレイヤーはとんでもないわんぱくでわがまま坊主だったこと。そのため、新米ナニーのアニーにとって、ミスターXの超高級アパートでのナニー生活は日々地獄の苦しみとなっていった。

そこで湧いてくるのは、なぜアニーはさっさと辞めないの？ という疑問。アニーのうっぶん晴らしの話し相手となってくれたりネットも、恋の芽ばえの予感のするハーヴァードもアニーに対して「さっさと辞めれば」と提案したのだが、さてアニーは……？ そこがこの映画、というより原作のミソ。つまり、辛い経験をし、それに耐え、それを乗り越えていく中ではじめて人間は成長するものなのだ……。

こんな家族ってホントに幸せ？

世界を飛び回りながら企業の合併・吸収の話をまとめ、そのたびに巨額のマネーを手に行っているミスターXは、ホリエモン顔負けのやり手であり、大富豪。しかし、そんな男は、家族と共に過ごす時間が犠牲になるのはやむをえない。ミセスXが金にまかせてショッピング三昧をしたり、自分を磨くためのセミナーに精を出すのは、ある意味で夫からかまってもらえないという不満の捌け口……？

そんな両親だから、グレイヤーが両親の愛情に飢えていたのは当然。実は、アニーがすぐにナニーを辞めなかった、いや辞められなくなったのは、アニーがそんなグレイヤーのさびしさに気づき、実際の母親のような愛情をグレイヤーに注ぐようになったためだ。グレイヤーの6歳の誕生日における夫婦ゲンカの様子やミセスXに隠れてのミスターXの不倫、さらに家族揃った避暑地でのバカンスにおける「行き違い」などを見ると、この2人の夫婦仲はかなり怪しげ。

したがって、ミセスXが離婚しないのは、ひょっとして現在の贅沢な生活に固執し



© 2007 The Weinstein Company, LLC. All rights reserved.

ているだけ……？　すると、映画後半にはミスターXとミセスXの離婚の話が登場するかも……？　そんな風に考えるといくらカネがあっても、こんな家族ってホントに幸せ……？

ナニーカメラってホントにあるの？

今や日本でもさまざまな自分磨きのためのセミナーが花盛りだが、ナニーという実態がない日本ではさすがに「ナニー問題解決セミナー」はありえない。しかし、何ゴトも本音でぶつけ合い、本音の議論をすることをよしとするのがアメリカ社会。したがって、そんなセミナーで講師はそこに参加しているナニーに対して、「雇い主に対する不満を述べよ」と水を向けたが、そりゃ無理というもの。だって、そもそも雇い主とナニーとは力関係が違うのだから。

ところが、そこで無理矢理発言を求められたアニーが、ついある不満を口に出してしまったから大変。その後当然一悶着が……。それはあなた自身の目で観てもらいたい。ここでわかったのは「ナニーカメラ」なるものの存在だ。某家では、ナニーカメラによってナニーのダメぶりが判明したという成果の発表がされていたから、アニ

ーが現在のナニー生活に不満を持っていることを知ったミセスXは、ひょっとしてナニーカメラを設置するかも……？

アニーがキレた理由は？

ナニーに対するミスターXやミセスXの仕打ちに、アニーがキレかかった理由はいろいろある。第1は、 그레이ヤーがエリート校の受験に失敗したのは、アニーが十分な教育的活動をしていなかったからだと言われたこと。第2は、 그레이ヤーが熱を出したことを報告しようとしても、夫とケンカして高級スパへ泊まりがけで出かけていったミセスXと連絡がとれなかったこと。第3に、避暑地でのバカンスでミスターXのセクハラにあったうえ、その責任をミスターXではなくアニーがとらされ、ミセスXから解雇を言い渡されたこと。そして第4に、このバカンス中ハーヴァードから再三電話があったのに、ミセスXが取り次いでくれなかったこと。

今や完全に恋人同士となっているハーヴァードからの電話を取り次がなかったことを知ったアニーの怒りは今や頂点に……。

なぜ、アニーはクマにキレたの？

解雇されたことによって、アニーは1人で避暑地を去ることになったが、その際に「今月分のお給料」としてもらった金額はホンのわずか。これに怒り狂ったアニーは、ミスターXのアパートに戻り、ナニーカメラのありかを探したが、さてそれはどこに設置されていたの……？ ここでバラすわけにはいかないからそれは映画を観てのお楽しみだが、この映画のハイライトは、ナニーカメラに向けてぶちまけるアニーの独白。これは、あれもこれもすべてが本音だけに説得力十分だ。

今、ミセスXは例の「ナニー問題解決セミナー」に出席し、ナニーカメラに録画されていたアニーの独白を、セミナー参加者と一緒に鑑賞していた。こんな生々しい映像を参加者全員にオープンにするのもアメリカ流だが、その映像が参加者に与えた衝撃とは……？ また、それを観てミセスXは、自分の人生や生きざまをどのように見つめ直したのだろうか……？

なぜ、アニーがクマにキレたのかを考えるとともに、この映像を観たミセスXの人生の転換ぶりにも十分興味をもってもらいたいものだ。

2008(平成20)年8月7日記